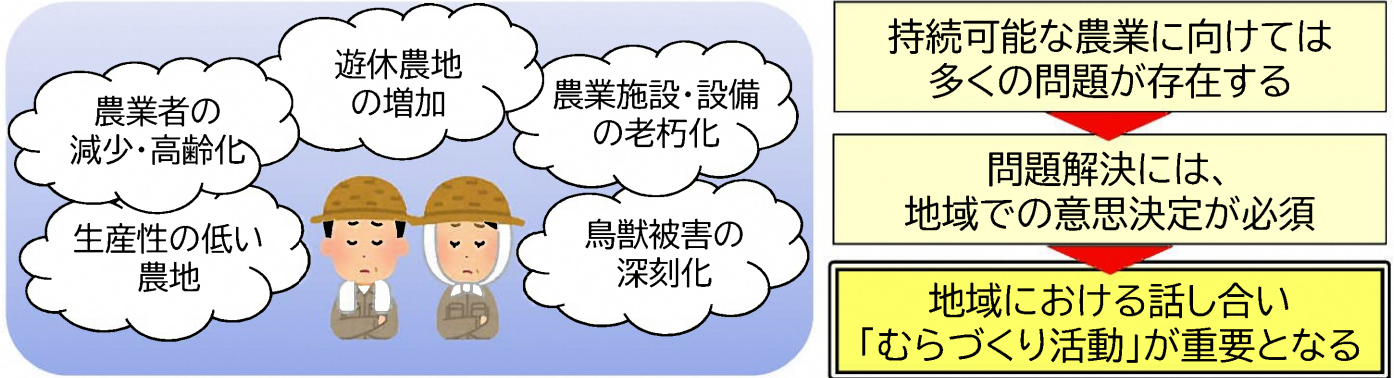


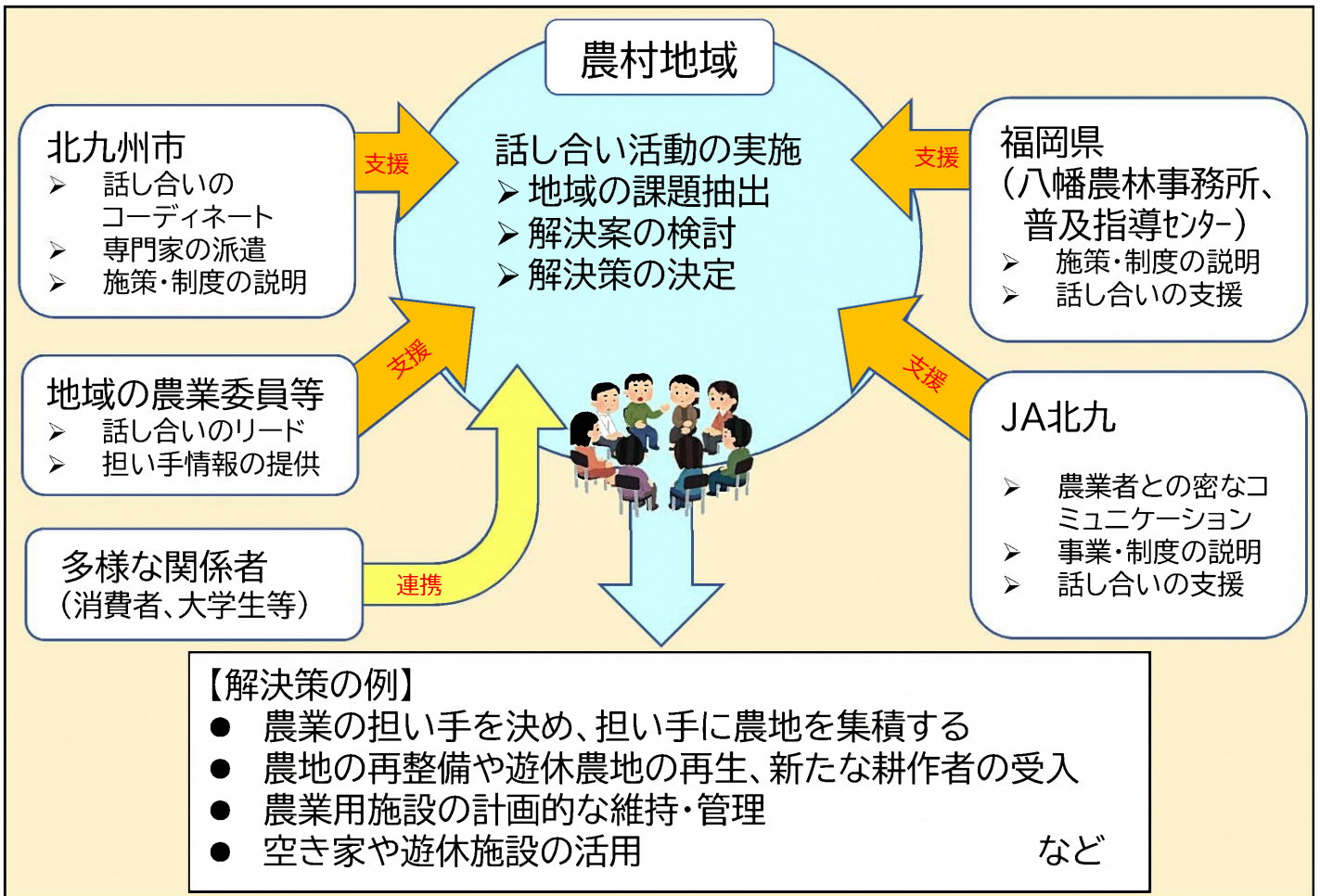
北九州市版むらづくり活動の活性化

1 北九州市版「むらづくり活動」の背景



都市と農村地域とが近接する都市型農業という北九州市の特徴を生かし、関係機関だけでなく、多様な関係者(消費者や大学生など)が連携し、農村地域の課題解決に向けた話し合いを支援する。

2 北九州市版「むらづくり活動」の体制



3 期待される活動の効果

- 多様な担い手の参画による農業・農村の活性化 I-1 III-1
- 農地の再生、生産力の向上 I-2 II-1
- 農道や水路などの適正管理や長寿命化 II-1
- 基盤整備等による大区画化及び担い手への農地集積 I-2 II-1
- 農村地域の環境保全、鳥獣被害の防止 II-2 III-2



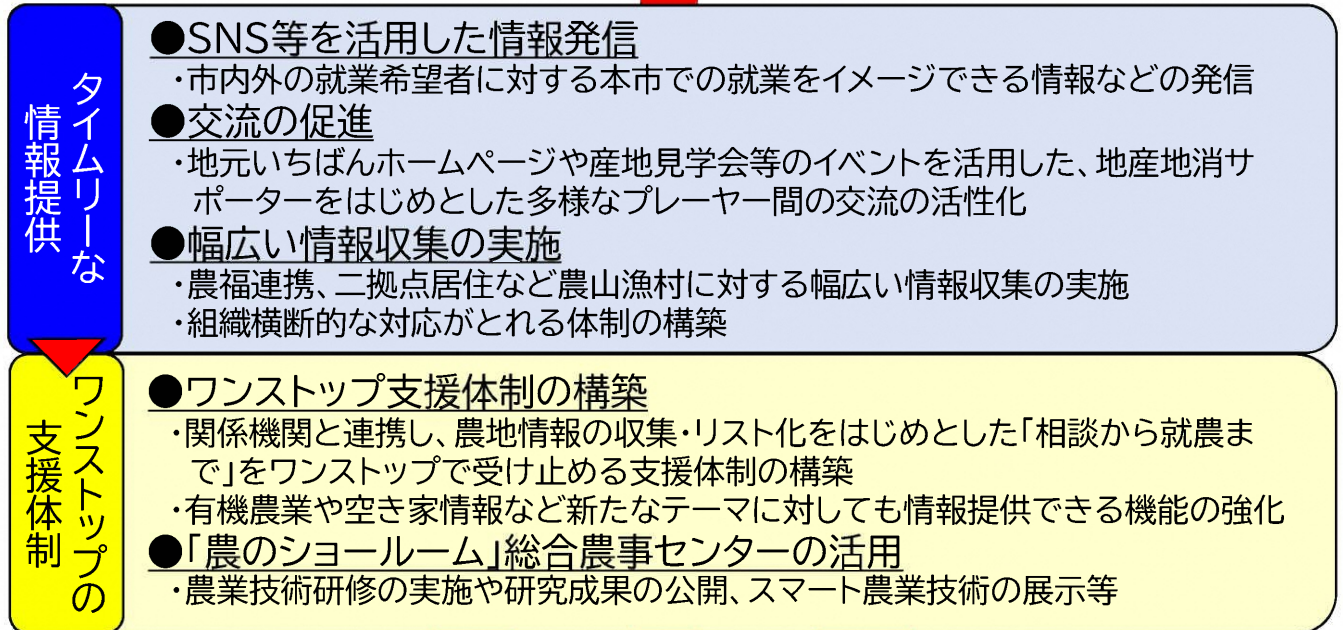
(注)資料中の I-1 などの表示は農林水産業振興計画の施策体系番号を表す

多様な主体が農林水産業を担う仕組みづくり

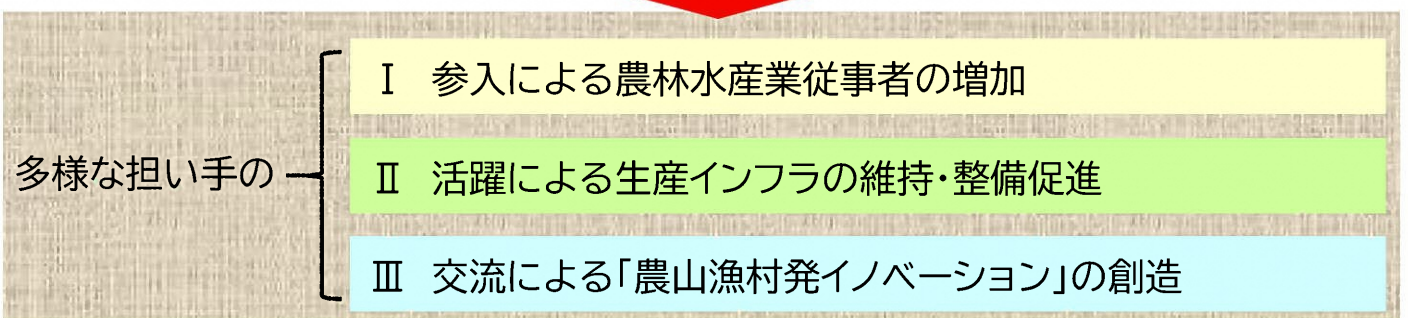
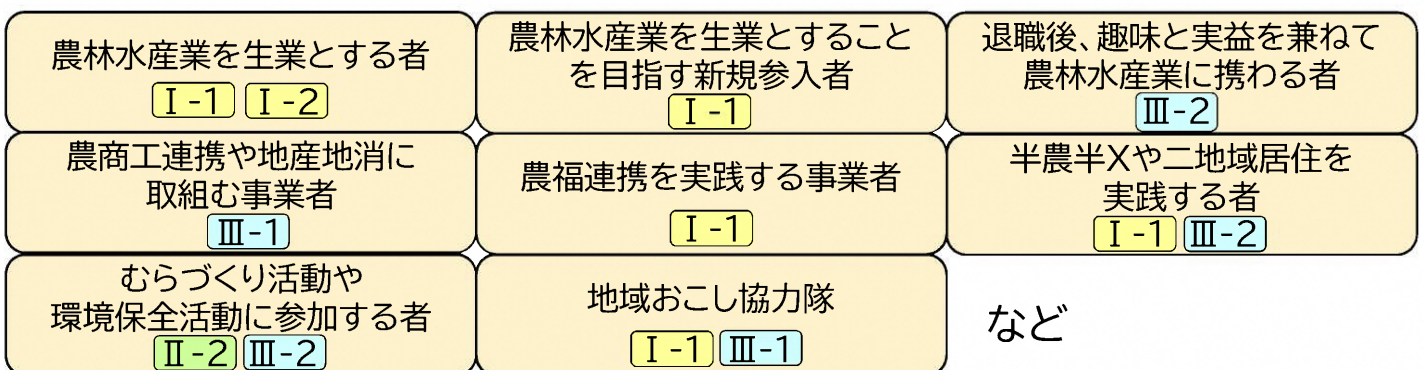
農林水産業に〔・関係する ・関心を持つ〕様々な主体



1 多様な主体が関わる仕組み



2 多様な主体を多様な担い手(農林水産業や農山漁村の暮らしを支えるもの)に



(注)資料中の I-1 などの表示は農林水産業振興計画の施策体系番号を表す

スマート技術の導入による生産流通体制の効率化

1 スマート技術の導入の背景と効果(農業)

農業の現場は人手や熟練を要する作業が多いため、**省力化や人手の確保、負担軽減が課題**となっており、**スマート技術の導入による課題解決が期待される**

スマート農業技術の導入による効果の例

◆ 農作業の省力化 **I-1** **I-2**

ドローンや自動運転農機などの活用
→省力化による規模拡大 女性・高齢者の活躍拡大



◆ 生産性の向上 **I-2** **II-1**

情報通信技術(ICT)を活用し、作物の生育管理を行う
→品質、収量向上による所得増加 気象災害等の被害軽減



◆ 栽培技術の継承 **I-1** **I-2**

熟練農業者の技術のデータ化により、新規就農者でも短期間で技術を習得
→新規就農者の増加 品質、収穫量の向上



◆ 環境負荷の低減 **II-2**

センシングデータ等の活用によるピンポイント散布
→農薬・肥料の適切な利用によるCO2の排出削減



◆ 物流の効率化 **II-2** **III-1**

生産から流通・加工・消費・販売までのデータ相互利用
→需給マッチングによる食品ロス削減 共同輸送によるCO2の排出削減



(注)資料中の **I-1** などの表示は農林水産業振興計画の施策体系番号を表す

2 本市農業へのスマート技術の導入

一部農家でドローンを活用した農薬散布やセンサーの活用などがみられるが、**本市全体としてはスマート技術の導入は進んでいない状況である。**

令和3年度

「北九州市スマート農業ミーティング」(農家や学識経験者、企業などで構成)において、市内6地域の地域性に合致したスマート農業について類型化を実施。

【類型化の例】

地区 (生産物)	農業機器の自動化・ インテリジェント化	センサ等汎用 ICT製品の応用	画像・センサ・衛星 などのデータ解析	業務情報管理 ソフトウェア
小倉南区 (たけのこ+水稻)	スマート台車	獣害検知センサ	収穫判断アシスト	地図による ほ場管理
若松区 (露地野菜)	自動定植機 自動運転トラクター	ドローン(散布) 気象センサー	ドローン (リモートセンシング)	業務管理システム

令和4年度以降～

- 国のプロジェクトを活用した実証事業
 - 情報発信や技術展示などの啓発事業
 - スマート技術の導入に対する補助事業
- などを実施し、スマート技術の普及を図っていく。